佐野日本大学学園
創立 60 周年記念事業報告書

佐野日本大学学園創立 60 周年記念事業
総務委員会
2025 年 5 月 31 日

佐野日本大学学園創立60周年記念事業報告

令和元年4月から佐野日本大学学園創立60周年記念事業を行っておりましたが、この度、令和7年3月31日をもって、以下の通り無事終了いたしましたことを報告いたします。佐野日本大学学園創立60周年記念事業は皆様のご支援並びにご協力をいただいた方々に対し厚く御礼申し上げます。なお、寄付事業は令和9年3月31日までお願いしております。

１．記念行事

⑴ 講演会Ⅰ　ラグビー元日本代表 大野 均 様
令和6年6月10日

⑵ 姉妹校交流Ⅰ　キングエドワードⅥ校ラグビーチームフレンドリーマッチ
令和6年7月15～18日

⑶ 講演会Ⅱ　アイルランド大使 デミアン・コール 様
令和6年9月11日

⑷ 講演会Ⅲ　スポーツジャーナリスト・大阪芸術大学教授　増田明美 様
令和6年10月10日

⑸ 式典　創立60周年記念式典
令和6年10月19日

⑹ 姉妹校交流Ⅱ　ガールズグラマースクール校長 ジャックリーン・コーネル 様
令和6年10月21日

⑺ 講演会Ⅳ　モルドバ共和国大使 ドミトル・ソコラン 様
令和6年11月27日

⑻ コンサート　陸上自衛隊第12旅団音楽隊 様
令和6年12月19日

⑼ ビデオメッセージ　宇宙飛行士 山崎 直子 様
令和7年1月下旬

２．記念行事振り返りアンケート結果

３．記念整備

⑴ 短期大学社会福祉棟防水工事（令和元年9月30日竣工）

⑵ プラザ４０空調（冷暖房）災害時LPガスバルク供給設備設置工事
（令和元年11年28日竣工）

⑶ サッカー場人工芝敷設及びスプリンクラー埋設工事（令和2年8月31日竣工）

⑷ 短期大学教務システム入替（令和4年3月1日完了）

⑸ 給付型教育基金（令和元年度～4年度給付完了）

⑹ ICTテレビモニター設置工事（令和5年8月31日竣工）

⑺ 正門アプローチ整備・テニスコート人工芝敷設工事（令和6年10月18日竣工）

⑻ ラーニングコモンズ新築工事（令和7年3月31日竣工）

４．募金状況（令和7年5月31日現在）
325,376,400円

５．創立60周年記念事業総務委員会名簿
塚本俊久委員長、片岡哲哉副委員長、星秀男委員、石森勇委員、金子好雄委員、
中村陽一委員、赤坂英則委員、細田晃良委員、大橋義成委員、大川美江委員、
板倉茂樹委員、小林大輔委員、岩崎浩委員、田邉健委員、町田裕之委員、
大島宏之委員、菊地秀明委員

１．行事

講演会Ⅰ　ラグビー元日本代表　大野　均 様

２．内容［高等学校ＨＰより引用］

6 月 10 日（月）、ラグビー元日本代表で現在は東芝ブレイブルーパス東京でアンバサダーをされている大野均さんを講師としてお招きし、プラザ 40 で講演会を開催しました。はじめに、高原高等学校校長からご挨拶と講師の方の紹介がなされました。その後、大野均さんに『弱小チームからワールドカップで勝つまで』という演題でお話しいただきました。大野さんは、ラグビー日本代表としての選手生活を振り返りながら、ラグビー日本代表になるまでの自身の生活について、また、ラグビーの知識や求められるスキルなどを実際の試合映像を織り交ぜながらお話しいただきました。大野さんは野球が大好きで、小学校から高校までは野球に打ち込む生活を送っていたものの、大学進学時に先輩方の熱烈な勧誘で日本大学工学部のラグビー部に入部したそうです。ラグビーは初心者で、キックやパスなどの技術は低かったものの、その中でもがむしゃらにプレイをすることで根性を評価され、福島県選抜チームへの選出、東芝ブレイブルーパスの社会人練習への参加を経て強豪である東芝ブレイブルーパスに採用されることになります。大野さんは、技術の低い自分がチームのためにできることはなにかを考え、体を張ってボールを繋ぎ、走り続けました。そして、その努力を当時の日本代表の監督に評価され、日本代表に選ばれました。２０１５年のワールドカップには当時世界ランキング２位の南アフリカを相手に、世界一厳しいと言われた練習を４年間こなしてきた自分たちを信じ、「今までやってきたことをすべて出し切って、それでも負けたらしょうがない」という開き直りにも近い覚悟で臨んだそうです。その結果、「世紀の番狂わせ」と呼ばれる記念すべき勝利をおさめることができたのです。大野さんは、「良いチームワークとは、このチームのために自分がするべき仕事・役割を完璧にやり抜くこと」であると述べられました。さらに、日本代表としてモチベーションを保ちながら世界と戦い続けられる選手の共通点として「覚悟・本気・感謝」の３要素があり、中でも「感謝」こそが自分を成長させる最も根本にあるものだと述べられました。結びに佐野日大の生徒に向けて、「ぜひこれからの日本ラグビーに注目していただき、そこから困難に立ち向かう勇気やなにかをやり遂げるすばらしさを共感して受け取ってほしい。」と伝えてくださいました。講演後は質疑応答の時間を設け、生徒たちからはたくさんの質問があがりました。大野さんはあがった質問すべてに丁寧にお答えくださいました。最後に船渡川中等教育学校校長が謝辞を述べられました。今回の講演会は生徒にとっても教職員にとっても、たいへん学びの多いものとなりました。貴重な機会を本当にありがとうございました。

１．行事

姉妹校交流Ⅰ　キングエドワードⅥ校ラグビーチームフレンドリーマッチ

２．内容［高等学校ＨＰより引用］

7月16日(火)、プラザ４０にて学園創立６０周年King Edward Ⅵ世校ラグビーフレンドリーマッチ歓迎セレモニーが行われました。はじめに和太鼓部の演奏を披露し、King Edward Ⅵ世校の方々への歓迎の意を示しました。続いて、今年度のシェイクスピア賞の授与が行われ、昨年度の卒業生である金子太治さんが受賞しました。その後、長谷川理事長が挨拶を述べ、King Edward Ⅵ世校のカー校長からもスピーチをいただきました。さらに、King Edward Ⅵ世校ラグビーチームと本校ラグビー部のキャプテンが挨拶を述べました。最後に吹奏楽部と合唱部が演奏し、セレモニーは閉会となりました。その後バスに乗り、菅平高原へ向けて出発しました。道中の昼食は「おぎのや」で峠の釜飯をいただき、長野市内を観光したのちに善光寺を見学しました。菅平高原に到着し、宿泊先はラグビー日本代表も宿泊するプチホテルゾンタック。7月17（水）、午前中は合同練習、午後はフレンドリーマッチ・アフターマッチファンクションが行われ、合同練習や途中に地元の幼稚園児とも交流しました。フレンドリーマッチは両チームの攻防の末、King Edward Ⅵ世校チームの勝利。また、試合が終われば「ノーサイド」ということでアフターマッチファンクションが行われ、互いの記念品を交換し、健闘を称え合いました。7月18（金）、朝食後にKing Edward Ⅵ世校を見えなくなるまで見送りました。大変貴重な3日間を通して、両校の親交を深めることができました。関係者の皆様方、ありがとうございました。

１．行事

講演会Ⅱ　アイルランド大使 デミアン・コール 様

２．内容［中等教育学校 HP より引用］

9 月 11 日（水）の 5・6 時間目に佐野日本大学学園創立 60 周年記念事業の一環として、駐日アイルランド大使のデミアン・コール氏をお招きし、講演会が開催されました。デミアン・コール氏は、アイルランド国立大学コーク校で歴史と英語の文学士号を取得し、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院でグローバル外交の修士号を修められました。1995 年にアイルランド外務省に入省し、駐ベトナム大使、駐エジプト大使を歴任するなど数々の要職などを務められました。これまでヨーロッパをはじめとする多国間の国際交渉に携わり、特に経済協力や文化交流の分野で大きな功績を挙げられています。講演に先立ち、舩渡川中等教育学校長より、紹介を兼ねてご挨拶がありました。講演はアイルランドの文化、スポーツ、食事などをはじめ、アイルランドが日本と同じ島国であることや、人口は 515 万人、首都ダブリンが最大の都市であることが紹介されました。アイルランドの公用語は英語、アイルランド語であり、障がいを持つ人も活躍できるように手話も公用語として採用されているそうです。さらに、SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みにも積極的であるとのことでした。アイルランドはかつて農業中心の国でしたが、1973 年に EU の前身である EC に加盟してから、急速に経済が発展し、現在ではハイテク産業が主力産業になっており、世界的にも有名な企業がアイルランドを拠点として進出しているそうです。このような経済発展には教育が重要であり、人材育成のため国際社会で活躍できるスキルを育成するためのカリキュラムが組まれています。講演後には質疑応答が行われ、生徒たちは積極的に質問を投げかけていました。中には英語で質問する生徒もおり、アイルランド国旗の色の意味や、リバーダンスという伝統舞踊の名前の由来、大使としての経験から得た変化、日本で好きな食べ物などについての質問がなされました。最後に、全員で記念撮影を行い、無事に講演会が終了しました。

１．行事

講演会Ⅲ　スポーツジャーナリスト・大阪芸術大学教授　増田明美 様

２．内容［高等学校ＨＰより引用］

10 月 10 日（木）、スポーツジャーナリストで大阪芸術大学教授の増田明美さんを講師としてお招きしての講演会がプラザ 40 にて開催されました。はじめに、佐野日本大学短期大学の小山裕三学長から挨拶と講師の紹介がなされました。その後、増田明美さんに『自分という人生の長距離ランナー』という演題でご講演をいただきました。増田さんは長距離選手になったきっかけから選手として経験したこと、そして現在の活動の中での経験をお話しくださり、ご講演の中にちりばめられたたくさんのエピソードに生徒たちは聞き入っているようでした。お話の中には増田さんにとってつらかった時期についてのものもありましたが、その時の気持ちを包み隠さずお話ししてくださり、生徒たちの心に響いたようでした。増田さんは最後に「目標に向かって走り続けてください」と激励の言葉を送ってくださいました。講演後には質疑応答の時間が設けられ、生徒たちからたくさんの質問があがりました。増田さんはあがった質問一つひとつに丁寧に優しくお答えくださいました。最後に高原高等学校校長が謝辞を述べられました。今回の講演会は生徒にとっても教職員にとってもたいへん胸を打たれるものでした。貴重な機会を頂き、本当にありがとうございました。

１．行事

式典　創立 60 周年記念式典

２．内容［高等学校ＨＰより引用］

10 月 19 日(土)、創立 60 周年記念式典が行われました。司会は 2017 年に本校を卒業されたテレビ朝日アナウンサー駒見 直音さんが行いました。オープニングセレモニーでは、吹奏楽部の演奏と中等教育学校合唱部による大地讃頌からスタートしました。続いて校歌の演奏に合わせて短期大学、高等学校、中等教育学校の校旗が入場しました。佐野日本大学短期大学の小山裕三学長から開式の挨拶の後、国歌斉唱、佐野日本大学学園長谷川 弘理事長による式辞が行われました。

長谷川理事長式辞(抜粋)

「60 年の歴史の 1 ページを一緒に刻まれた先生方、そこに携わる方々、現在学んでいる学生、生徒の皆さん、そして教職員が一堂に会してお祝いができますことはこの上ない喜びであります。60 周年を迎えました学園を振り返りますと、創立 25 周年を皮切りに、30 年、40 年、50 年と周年を迎えるたびに、周年行事がまるで竹の節のごとく、学園は発展してまいりました。そこには絶え間ない苦労と努力がつまっております。1 年 1 年の積み重ねが今日に至り、現在では、開校順に高等学校 34 ,910 名、短期大学 9,618 名、中等教育学校 944 名の 45,472 名の卒業生が政界、財界、医療、教育、スポーツ、エンターテインメントをはじめ、あらゆる分野において国内のみならず、世界で活躍しております。まさに、自主創造、文武両道、師弟同行を実践し、今日の隆盛を成しえてきました。（学園が）還暦を迎え、更なる新しい時代へ文化の幕開けを迎えるにあたり、本学園の今を示す言葉は、まさに『黎明』であります。新たに踏み出さなければ衰退期を迎えることになります。発展するか否かは、一人一人に課せられた責務でもあります。創立 60 周年を新たなスタートの年ととらえ、昭和、平成の時代を乗り越えた方々に敬意を払い、今年度を佐日黎明期とします。新たなる挑戦に挑むことしか選択肢はありません。これからの学園の歴史を作るのは、皆さんです。皆さんの無限に広がる可能性に期待と望みを託し学園は歩んでまいります。本日ここに集う、学生、生徒の皆さんとともに新しい時代を切り開くことをお約束し学園がさらに、70 年、80 年、100 年と未来永劫繁栄することを祈念し、本日の式辞とします。」

長谷川理事長式辞の後佐野市長 金子裕 様より来賓祝辞の挨拶がなされました。登壇者紹介の後、日本大学学長をはじめ、各学部長など多くの方々からの祝電が披露されました。表彰状授与及び記念品贈呈では、特別功労賞、創立 60 周年記念キャッチコピー表彰が行われました。

［特別功労賞　佐野日本大学学園　名誉学園長　浦田　奬様］

［創立 60 周年記念キャッチコピー表彰　令和 6 年度　佐野日本大学高等学校　3 年 6 組］

60 周年記念式典にあたり、高等学校、短期大学、中等教育学校から各 1 名ずつによる 誓いの言葉を述べました。最後に、佐野日本大学短期大学の小山裕三学長から閉式のことばにより、閉式しました。

学校法人 佐野日本大学学園
創立60周年記念式典

１．行事

姉妹校交流Ⅱ　ガールズグラマースクール校長 ジャックリーン・コーネル 様

２．内容［高等学校ＨＰより引用］

10 月 21 日(月)、プラザ４０にてストラットフォードガールズグラマースクール姉妹校調印式（更新）と校長講演会が行われました。はじめに和太鼓部と吹奏楽部が演奏を披露し、ガールズグラマースクールのコーネル校長への歓迎の意を示しました。続いて、姉妹校提携更新の調印が行われました。その後、長谷川理事長が挨拶を述べ、ストラットフォードガールズグラマースクールのコーネル校長からご講演をいただきました。最後に生徒を代表して中等教育学校の仙田さんと堀越さんがお礼の言葉を述べ、生徒会長の田部井さんが花束を贈呈して閉会となりました。

１．行事

講演会Ⅳ　モルドバ共和国大使 ドミトル・ソコラン 様

２．内容［高等学校ＨＰより引用］

11 月 27 日(水)、プラザ４０にて学園創立 60 周年記念モルドバ共和国大使講演会が行われました。まず初めに舩渡川中等教育学校校長の挨拶、講師紹介がありました。講師紹介の後、モルドバ共和国　ドゥミトル・ソコラン 特命全権大使による講演が行われました。講演では『Moldova: closer than you think!』という演題で、モルドバ共和国の名産や気候、食文化、教育について、モルドバ共和国の抱える課題、日本との関わり、モルドバ共和国から見た日本、母国語であるルーマニア語で「こんにちは」「ありがとう」などはどのように言うのかなど、多岐にわたって詳細にご講義くださいました。質疑応答の時間では多くの生徒が積極的に手を挙げ、英語で質問する様子が見られました。質疑応答終了後、髙原高等学校校長による謝辞と高等学校生徒会長田部井 瑠那さんによる花束贈呈が行われ、講演会は終了しました。生徒も真剣に聴講し、これまでなかなか知る機会のなかったモルドバ共和国について、興味を持つ良いきっかけになったと思います。

１．行事

コンサート　陸上自衛隊第 12 旅団音楽隊 様

２．内容［高等学校ＨＰより引用］

12 月 19 日(木)、プラザ 40 にて陸上自衛隊第 12 旅団音楽隊コンサートが開催されました。例年この時期に行われている予餞会を兼ね、生徒会主催のもと、創立 60 周年記念行事のフィナーレとしてこのコンサートが開催されました。開会式では開会の言葉に次いで校長挨拶、生徒会長挨拶、鑑賞上の注意 があり、いよいよコンサートが始まりました。まず陸上自衛隊第 12 旅団音楽隊とはどのような団体なのか音楽隊が説明してくださり、部隊章の由来などを教えてくださいました。演奏された曲は

1　イーグルアンドソード
2　雷神
3　シティーポップ・メドレー
4　すてきなホリディ
5　Mrs. GREEN APPLE メドレー
　～アンコール～

と迫力のある行進曲から私たちに馴染みのある曲まで様々な曲を聴くことができました。
また、吹奏楽部との合同曲として

1　アルセナール
2　レ・ミゼラブル

が、演奏されました。その後生徒会による花束贈呈、謝辞、塚本法人事務局長による閉会宣言、写真撮影が行われ演奏会は終了しました。生徒たちは普段聴くことのできない陸上自衛隊音楽隊の素晴らしい演奏に時折手拍子をしながら楽しそうに聴いていました。６０周年にふさわしい、壮大な予餞会となりました。最後に、創立 60 周年記念事業の最後の行事となるため、塚本法人事務局長が創立 60 周年記念事業の閉会宣言を述べた。

１．行事

宇宙飛行士 山崎 直子さんビデオメッセージ

各学校のホームルームにおいて宇宙飛行士 山崎直子からいただいた創立 60 周年記念メッセージを視聴した。　【記録写真なし】

創立60周年記念行事振り返りアンケート結果

高等学校2年生3年生、中等教育学校2年生から6年生の約1000名を対象にアンケート調査を実施。一人ひとりの生徒が真剣に各行事に臨み、様々な気づきと学びがあったようである。

講演会

◆大野様、増田様の講演会については、一流選手が自分自身の失敗や挫折について語ってくれ、それでも大成できたことに勇気と希望を感じたという感想が多かった。

国際関係

◆国際関係の各行事では、まず生きた英語に直接触れられた感動が大きいという感想を持つ生徒が多かった。また一国の大使が一つの学校に講演に来てくれたことに対する驚きや、英国の名門校の校長先生がお祝いに駆けつけてくれたことについて誇らしく思う生徒が多かった。

コンサート

◆自衛隊のコンサートについては、希少な機会であることや、技術力の高さ、生徒と一体となって演奏を楽しむ隊員の姿に大きな感動を感じたようであった。

生徒アクティビティー

◆キャラクターの命名や、生徒記念品の筆入れのデザインを生徒自身が協力して行ったことが楽しかったと記入した生徒が多く見られた。

以下、代表的な感想を抜粋する。

●講演会Ⅰ　ラグビー元日本代表大野均様「弱小チームからワールドカップで勝つまで」
6月10日（月）

・大野さんでも最初は弱小チームだったということを知り、環境ではなく自分の意志や気持ちの強さが一番大切なのだなと改めて実感しました。
・同じスポーツをやっている身として、大野さんの話が入ってきやすく、チャレンジすることの大切さを学んだ。
・私は、講話を聞く前では、難しいと人に言われば諦めてしまう性格だったです。でも、大野均さんの経験からは、決めた目標を簡単に諦めない人がそれを達成できるだと思いました。
・練習とかをまじめに取り組むことで、最初はできなくても続けていれば後から結果がついてくることがわかった。
・今まで自分のしてきた競技とは異なる種目で経験などを言い訳にせずがむしゃらに練習に取り組む姿勢がとても尊敬できました。また、きつい練習を辞めず高いモチベーションをもって日々努力し続けることがすごいと思いました。
・大学からラグビーを始めてトップレベルの選手になっているのがすごいと思った。
・元ラグビー日本代表だった大野さんのお話を聞き、今までの挫折だったり失敗経験など聞きました。自分もこの高校生活でたくさんの挫折や失敗がありました。その中で大野さんも決して楽な道ではなくどちらかと言ったら険しい道のりだったと言っていました。でも、それを乗り越えたからこそ今があると言っていました。なので自分も残りの高校生活を頑張ろうと思いましたし、とてもいい経験を学んだと思います。
・人生はいつ何が起こるかわからないし、偶然がすごい方向に行くことがあるので、視野を広

くもって進路をきめたいとおもった。
・スポーツの話で身近に感じ、日の丸を背負った人の話を聞けてよかった。
人には一度は挫折することがあるけど諦めないでもう一度挑戦することが大切だということが印象に残った。
・大野さんの灰になってもまだ燃えるという言葉がとても印象に残っている。
・ラグビーには元々興味がなかったけれど、聞いていて大野さんの熱い思いに自然と涙が出ました。
・誰でも諦めずに努力すればいつか実るということを学べて、私もどんな事でも諦めずに取り組みたいと思いました。
・私が印象に残ったことは、大野さんの体験した話がとても印象的でした。特に、ワールドカップに行くまでしてきた日々の話とても参考になりました。
・幼いころから野球一筋だった大野選手が大学生になって初めてラグビーに触れて、日本代表まで登りつめたことがすごいと思いました。
・ラグビーの選手たちの一日の過ごし方が意外な日程で驚いたことを覚えています。

●姉妹校交流Ⅰ　キングエドワード6世校ラグビーフレンドリーマッチ
7月16日（火）～17日（水）
・イギリス人との交流で普段は行わない英語での会話や異文化交流での新しい発見があった。
・試合に出ました。初めてほかの国の人と試合ができて、とても良い経験になりました。
・和太鼓や吹奏楽、合唱部の演奏がとても印象に残っています。
・違う国の人々がスポーツで交流していていいと思いました。
・初めて同年代の海外の選手と交流したり試合したりとかなり貴重な体験ができたから
・佐日はいろいろな海外の学校との関わりがある
・異文化交流がとても興味深くておもしろかった。
・姉妹校との交流会があり、クラスに来てくれた留学生とも仲良くなれた。
・キングエドワード校の生徒たちが同じくらいの学年とは思えないくらい体格がよく大人びていたので印象に残りました。
・イギリスからの来校だけではなくラグビーの試合もあったということで印象に残った。
・国際交流を深められたのでよかったです。

●講演会Ⅱ　アイルランド駐日大使　デミアン・コール 様
9月11日（水）
・アイルランドの食品は見たことないものばかりでこんな料理もあるんだと知見が広がった。
・日本とは異なる文化や国の様子を聞けて良かった。
・まず登場時の雰囲気からすごかった。
・アイルランドだからこその良さやほかの国でも共通している郷土愛を学ぶことができました。
・アイルランドの学校について知ることができた。
・外国の方の話を聞く機会がなかなか無いなかアイルランドについて詳しいことを知れた。
・理系選択の生徒は参加しないものだったのですが、アイルランドの駐日大使の話を聞ける機会はなかなかないと思って参加させてもらい、貴重な体験ができたので印象に残っています。
・海外からの目線での日本や、目新しい文化について学べたことが何より面白かった。英国研修ではさらに見聞を広げていきたいと思う。
・講演会で司会という大変貴重な体験ができ、とても印象に残っています。
・海外からの目線での日本や、目新しい文化について学べたことが何より面白かった。
・イギリスの隣国のことについて学べることができ、良かった。英国研修ではさらに見聞を広げていきたいと思う。
・伝統的な料理(羊の肉を使ったアイリッシュシチューなど)が知れたこと。
・アイルランドとどういう交流をしていたのかについて知った。

●講演会Ⅲ　スポーツジャーナリスト・大阪芸術大学教授　増田明美さん講演会
「自分という人生の長距離ランナー」
10 月 10 日（木）
・努力してきた人のお話がとても印象に残っていて、とてもいい経験ができた。ロンドン五輪の話は初めて聞くことも多かったので頑張っている人も大変なことがあるのだと勇気づけられました。
・増田さんが経験された辛いことを笑顔で話されているのを見て、私も辛い経験を引きずりすぎずに前向きに考えて、笑顔で話せるようにしたいと思った。
・人生何があるかわからないから、これから壁にぶつかったとき、増田さんの話を思い出したいなと思った。
・とても明るく元気に振舞っていた増田さんでも、悩んだり暗くなってしまったときがあって、それを乗り越えている今があることに感動しました。
・人を喜ばせるのも傷つけるのも人という言葉は人間社会の本質だと感じ、深い人生観だなと感動し、与えらしい価値観に触れることができてとてもためになった。
あきらめない心や、一回やめてもまた前へ進み、立ち上がっていく姿勢がとてもかっこいいなと思った。そしてその姿勢を見習っていきたいと思った。
・巧みな話術で場の雰囲気を和ませてくれて、話の内容もわかりやすかった。
私たちへの配慮をとても感じ、本当に素晴らしい方だなと思った。
・普段テレビや本では紹介されない挫折の部分と、そこからどう立ち直ったのかをおしえてくれて、自分がどんな人に今まで支えられて、これからどんな人間になりたいかを考える機会になった。
・私は嫌なことがあると、それが例え自分にとって成長につながるとしても、すぐにあきらめて逃げてしまいます。そのため、増田さんのお話から、諦めずに挑戦すればいつかは自分の大きな成長につながることを深く学びました。
・ちょうど自分の頑張ってることが上手くいかなくて落ち込んでた時期での講演だったので、増田さんの部活後に走って帰っていたエピソードや、マラソンでブーイングを受けながらも市民ランナーの人に励まされてゴールできた話に、とても感銘を受けて頑張ろうと思えたから。
・自分の失敗談を恥ずかしがらずにやってしまったことだからとみんなの前で言えるのがすごいと思いました。たとえ止まってしまってもあきらめずに走りきるということを学びました。
・オリンピックで歓声をもらいながら走っているのを見たことがあったが、そこに至るまでに様々なことがあったことを初めて知って、今はつらくてもいつかは報われることもあると再認識させられました。
・オリンピックで歓声をもらいながら走っているのを見たことがあったが、そこに至るまでにいろいろなことがあったことを初めて知って、今はつらくてもいつかは報われることもあると再認識させられた。
・増田明美さんの講演が一番印象に残っています。理由は、増田さんが発する言葉一つ一つに重みを感じました。テレビで見ていると自分の通う学校に来たことの誇りを感じました。
・自分が長距離好きなので、増田さんの話を聞いてすごく勉強になりました。
・挫折と成功を経験したことのある人の話は初めて聞くことばかりでとても印象に残っている。
・諦めそうになった時に他の選手が肩を押してくれたとい話が素敵でずっと印象に残ってます。

●姉妹校交流Ⅱ　ストラットフォードガールズグラマースクール校長 ジャックリーン・コーネル 様
10 月 21 日（月）
・全く知らなかった国のことについてたくさん学べた。
・イギリス英語を聴けてよかった。
・イギリスのガールズグラマースクールのことが知れて、姉妹校としてつながれたなと思った。

・英語ネイティブのアクセントが聞けた。
・歓迎の吹奏楽部と和太鼓部の演奏がとてもかっこよかったです。
・海外の学校の様子や生活などが分かってとてもいろいろなことについて学べた。
・実際にスクールに行かせていただいたこともあり、とても印象深かったから。
・英語が苦手だったんですが、スライドに写真がいっぱいあって分かりやすくていろいろな単語を覚えました。
・外国の学校がどのようなことをしているのか知りました英単語の意味もいくつか知りました。
・佐日とガールズグラマースクールとの学校での違いや授業の違いなどがしれて面白かった。
・感謝の言葉を言うにあたり、真剣に聴くことができたため、日英の違いを詳しく知れた。
・同じ学生でも国や文化によって学校の雰囲気が違うところが多いということ。

●講演会Ⅳ　モルドバ共和国モルドバ共和国大使 ドミトル・ソコラン 様
11 月 27 日（水）
・海外に目を向けていなかったので文化や伝統などすべてが初めての内容でした。
・モルドバと日本の似ている点、異なった点を知れたことが学びに感じました。
・モルドバについて多少は知っていたものの、詳しくはなかったので、とてもいい学習の機会となった。
・日本から離れていても日本とつながりを持っていることを知り、様々な国に興味を持ってこれから生活していきたいと思った。
・ウクライナ軍事侵攻についての話やモルドバの文化について学べた。
・一国の大使がわざわざ公演に来てくださるというとても貴重な体験と講話を聞くことが出来た。
・モルドバの大使が日本語でしゃべったところが日本人としてうれしかった。
・国を通して、日本も国としてまた本校も世界の環境のためにいろいろな活動をしているのだとあたらしくしることができました。
・他国の料理や、生活が日本と大きく違うことに新たな学びがあった。
・モルドバという国がある事、そしてその国についてなど知らなかった事がたくさんあった。
・モルドバの文化について触れることができて良かったです。郷土料理など知らないものが多くて聞いていて楽しかったです。
・新しく学んだものが多かったです。例えば、ドゥミトル・ソコラン特命全権大使が教えてくれたモルドバの気候、教育、名産、モルドバが抱える課題などです。
・もともとモルドバという国がどこにあるか分からなかったので知ることができました 日本よりも小さいことを知りました

●陸上自衛隊第 12 旅団音楽隊コンサート
12 月 19 日（木）
・自衛隊の音楽隊の生演奏を聴ける機会は少ないと思うので、とても嬉しかった。和音が綺麗でとても迫力のある演奏で感動した。
・自校と自衛隊による迫力のある演奏がとても印象強かったです。60 周年記念で、そこまでできるのか！と驚かされた一つでもありました。
・陸上自衛隊音楽隊のコンサートなんて聞こうと思ってもなかなか聞けないと思うので、すごく貴重な体験でした。ヒット曲やメドレーなどすべての演奏が迫力あって楽しかったです。
・自衛隊のみなさんが僕たちのために様々な曲を披露してくれて、たくさんの音楽と触れ合えた。
・人を音楽で笑顔にしたいという思いが人生を豊かにするための一つの手段であるということを学ぶことができました。
・佐日の吹奏楽部との合同コンサートを楽しむことができ、楽隊のみなさまが披露してくださった音楽の中に知っている曲も含まれていて友達と楽しむことができた。
・話を聞くだけの講演会も面白かったけどやっぱり演奏を聴く講演会？がとても印象に残った。みんなで盛り上がりながら聞いた演奏すごく楽しかったです。

・普段なかなか聴く機会がなく興味があったので聴けてよかった。演奏を聴いて、新たな学びがあった。自分のピアノの演奏に取り入れていけそうな部分はしっかり取り入れていきたい。演奏というものが単なる娯楽にすぎないものではなく、ほとんど必要不可欠なものにさえなりうるのだと感じた。
・知っている曲が一杯演奏され、吹奏楽部と一緒に演奏していたのが、特に印象に残りました。
・吹奏楽部として一緒に演奏できたことが一生の思い出になりました。
・演奏中に手拍子が起こっていることに普段コンサートなどに行くことがないのでびっくりした。 自分も演奏の一部になっている感じがして楽しかった。
・震災時などに人の命を救う自衛隊の方達と、一度もお会いしたことがなかったから。また、演奏が感動的だった。

●生徒記念品（筆箱）作成と投票
・筆箱のデザインなど考える機会などあまりなかったので、いざどのようなデザインにしようか考えると、私たち学生からしか得られないようなアイディアやデザインが出てきてとても面白かったです。
・自分がいいと思った物が必ずしも皆がいいと思うとは限らないと知ったから。
みんなで筆箱の作成案を考えるときに、佐日らしさや自分たちがどのようなものだったら使うかなと、色々考えることが楽しかったです。
・自分で筆箱のデザインをしてみたり、それをグループで意見を出し合って改善していったりした過程においてものづくりの難しさなどを学んだ。
・選ばれなかったがクラスのみんなと筆箱を考えてイラストを描く作業がとても楽しかった。
・佐日生しか持ってない筆箱を作り貰ったからよかった。
・自分たちで設計したりデザインをするのがとても勉強になりました。
・記念品を作るのはみんなの思い出になるように考えながら作ることができとても面白かったです。
・もののデザインをするというものが楽しかった。またこういうのがあればもっと楽しめそう。
・自分のアイデアを人に伝えて、実際に実現させる体験をしたから
・全校生徒皆で考えて一つのものを作成することの大切さに気づけました。
・生徒主体で何かを作るということが経験上なかったので、不意をつかれた並に驚いた。
・クラスで班を作って作成した時自分で 1 人では到底出てこなかったであろうアイデアがたくさん出て、デザイン性も機能性も色々なものがあって新鮮だった。
・学校全体でデザインのコンペをしたのが面白いと思った

●キャッチコピー（Fly to the future～掴め青春～）作成
・クラスのみんなと意見を出し合うことができた。
・みんなで考えるのが楽しかった
・みんなと協力してキャッチコピーを考えた。
・班の人といろんな考えを出し合って楽しかった。
・たくさんのキャッチコピーが出てきてどれも惹かれるポイントがあって詳しくは言えないのですが、こんな言葉を入れたこんな感じになるんだ、など新しい発見がありました。
・みんなでたくさんの案を出し合って意見を出す事の大事さを学んだ。
・キャッチフレーズで第一印象が決まる為相手にとって何が効果的か考えるのが楽しかった。
●キャラクター命名（高等学校ー出流原恒星　日野みかも　中等教育学校ーひかる　さくら）
・学校にキャラクターができるのが新鮮で面白くて、名前がなにに決まるんだろうとわくわくしていたのが楽しかった。
・私はキャラクター命名が特に面白かったです。みんなが考えたお名前がキャラクターの名前になるのが新鮮な気分になりました。
・佐日の制服を纏ったキャラクターの名前が決まったことはとてもよかったことだと思いました。
キャラクター命名は初めて見たときはとても衝撃的でした友達と名前の候補を出し合ったり推測することはとても楽しかったです、キャラクターの名前を知ったのは文化祭のはじめ

でとても盛り上がったことを覚えています。
・パネルを使って生で声をあてていたのが、見ていてとても楽しかった。
・新しいキャラクターに胸を躍らせ。
・この学校に合うようなユーモアがあるキャッチコピーを考える過程がおもしろかった。
・キャラクタの名前を生徒が決めたのは斬新だった。
・学校にイメージキャラクターがいるのはとても面白いと思った。
・文化祭の時の名前発表がおもしろかったです。
・まず、高校にキャラクターが出来たのがすごいと思った。文化祭の時にキャラクターのリンクをスマホで読み取って名前つけられるから手軽だし、キャラクター名前考えるのが楽しかった。
・新しく佐野日にマスコットキャラクターやイメージキャラクターの出流原くん等が来てくれたおかげで、より佐野日に盛り上がりが増えた様な気がしたのでよかったと思います。

⑴短期大学社会福祉棟防水工事（令和元年 9 月 30 日竣工）

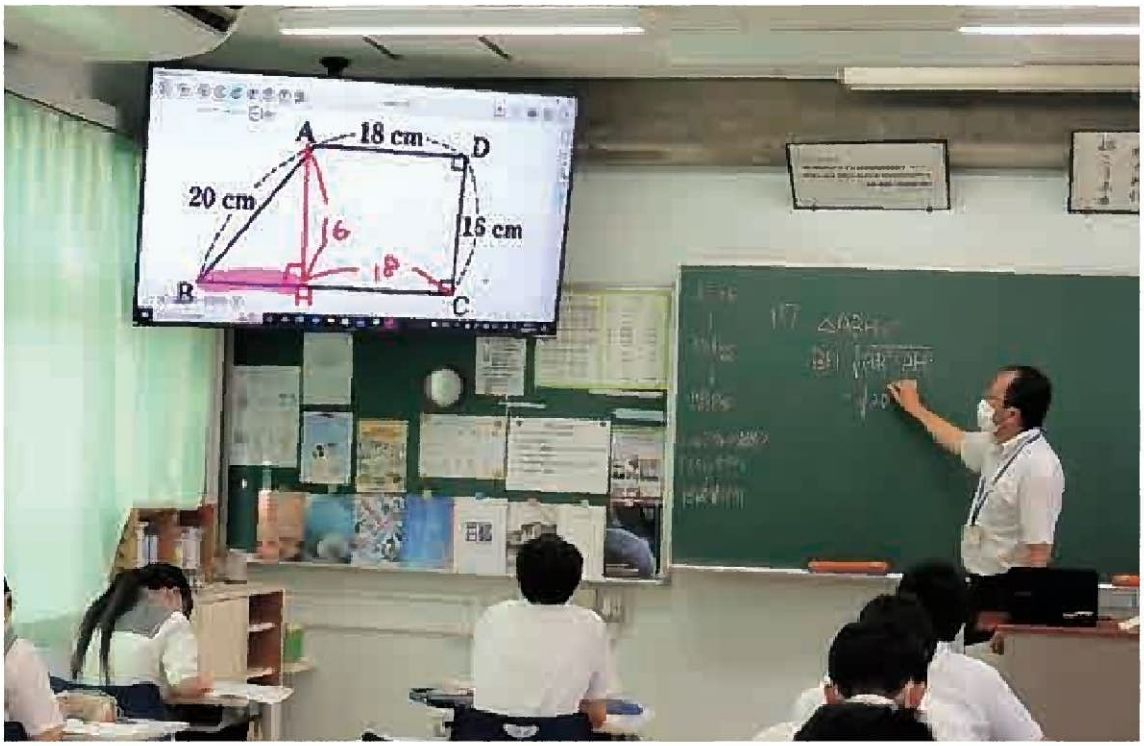
⑵プラザ４０空調（冷暖房）災害時 LP ガスバルク供給設備設置工事
（令和元年 11 年 28 日竣工）

⑶サッカー場人工芝敷設及びスプリンクラー埋設工事（令和２年８月 31 日竣工）

⑷短期大学教務システム入替（令和４年３月１日完了）

⑸給付型教育基金（令和４年度給付完了）

⑹ICT テレビモニター設置工事（令和５年８月 31 日竣工）



⑺正門前アプローチ整備・テニスコート人工芝敷設工事（令和６年 10 月 18 日竣工）

⑻ラーニングコモンズ新築工事（令和７年３月 31 日竣工）

高等学校・中等教育学校
キャラクター

キャラクターデザインはイラストレーター©Hikari Ichimura様にデザインを依頼し制作していただきました。また、キャラクターの名称については、題桜祭（文化祭）において生徒、保護者、一般の方からも広く募集をし、選考会議の結果、下記の通り決定しました。

いずるはら こうせい
出流原 恒星　　ひの
日野 みかも

■高等学校キャラクター

名称は
「出流原 恒星 」と
「日野 みかも」

ひかる　　さくら

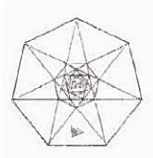
Character design © 2024 Hikari Ichimura

■中等教育学校キャラクタ

名称は
「ひかる」と
「さくら」

天明鋳物（国重要有形民俗文化財）

作者：天明鋳物師　若林秀喜氏



■創立60周年式典記念品

「寿々 青海波 七星皿（純錫製）」

(イ) 寿々
純錫製・純100%「枯れない・朽ちない」と古来より繁栄を祈念して使われた金属

(ロ) 青海波
無限に広がる穏やかな波

(ハ) 七星
北斗七星は不可能を可能にする奇跡の形

(ニ) 鎬模様
清廉さに神性をもたらす

■創立60周年生徒記念品

「ペンケース」

ペンケースのデザインは生徒から募集し、高等学校3年1組で考えたデザインが採用された。

ペンケースの右下に、創立60周年のシンボルマークが入っている

創立60周年
キャッチコピーとシンボルマーク

令和6年に創立60周年記念を迎え、それにふさわしいキャッチコピーを広く生徒・学生・教職員に募集したところ、多数の応募者の中から高等学校3年6組で考えた作品が選ばれました。また、シンボルマークは日本大学芸術学部 前学部長 木村政司様にデザインを依頼し制作していただきました。

■創立60周年キャッチコピー

「Fly to the future ～掴め青春～」

■創立60周年シンボルマーク

「夢に向かって羽ばたくために」

佐野のSをシンボルに佐野日本大学学園か強い翼を身につけ、自らの夢に向かって羽ばた強さを表現している。また、60年の歴史が学ぶ者たちを支えてきたという誇りを表現している。

■中等教育学校シンボルマーク

「佐野が地域が君を応援している」

地域と学舎の一体感を表現したもの。また、それは一人ひとりの笑顔と勇気と元気から夢や希望をもらい、やがて人や街に貢献できるひとになるというシンボルを創造した。

Designed by Masashi Kimura 2024

学校法人佐野日本大学学園
創立 60 周年記念事業総務委員会
2025 年 5 月 31 日作成